

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 3年 2月 15日

職員 8人

事業所名 発達支援ルームつむぎPIUS

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	0		
	2	職員の配置数は適切である	8	0	0	祝日・土曜日等朝からの利用日については特に多く配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	8	0	基本的な事業所内のバリアフリーは行っている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	0	定期的な会議等で実施している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	7	0	今年度は、保護者会を実施した。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	0	ホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	1	7		現在、外部評価は難しく行えていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1	0	7	限られた中での研修・社内研修は行っている。	今年度はコロナのため、外部研修が削減されている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	契約時はアセスメントには時間をかけている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	0	アセスメントの内容が、学年相応でなくなっている部分もあり種類を増やした。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	0	月毎に担当を決め、責任も持ちながら話し合い決定している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	0	月毎に担当を決めているので、様々な内容のプログラムになっている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	0	0	コロナ禍、1日の流れの中児童を飽きさせないよう細やかに設定ができていた。	今年度はコロナのため、外出支援ができにくい状態ではあった。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	行事予定を考える際には、両方の活動ができるよう作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	0	朝礼時には、申し送りや支援内容について、その月の行事作成担当者を中心として確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	0	申し送り内容については、担当者に報告をし、児童の記録簿記入の際に気づいた点等を共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0	月毎の課題設定に対して主に記録をとり、支援の検証を行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0	半年ごとに行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	0	1	7	基本活動は複数の活動を組み合わせ支援している。	職員にガイドラインの総則内容についての把握が徹底できていない。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	0	管理者若しくは児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	0	学校によっては、毎月学校の行事予定表をFAXをしてきている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	1	7		主治医等と連絡体制を整える児童の受け入れが、今のところない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	0	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	7	0		まだそのようなケースがないが、移行する場合は支援内容の提供を行う予定である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	0	児童発達支援センター内には、相談支援事業所も併設していることもあり、助言を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	0	8		今年度当初は、放課後児童クラブとの交流を考えていたが、コロナのため中止とした。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8	0	0		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	0	送迎時には児童の様子等を必ず伝えているので、共通理解はできている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	0	8	保護者からの相談については、わかりやすく前向きになれるよう支援している。	ペアレント・トレーニングについては、研修が少なく、職員の知識や保護者対応の経験が必要とされるため、時間が必要である。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	1	7	0	契約時には丁寧に説明はしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	2	0	最終、管理者若しくは児発管が助言を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	0	コロナ禍の中、少人数の参加者ではあったが、行うことができた。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	0	できるだけ迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	0	毎月の行事予定表に情報を載せている。	事業所としては発信しているが、保護者に伝わりにくいこともわかり、もっと広報の仕方を考えたい。
	35	個人情報に十分注意している	8	0	0	アセスメントの閲覧、写真の掲示等注意している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0	わかりやすく、言葉も選んで話をしている。	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0	8		ボランティアや行事等で、出向いていくことはあったが、招待するような行事はできなかった。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0	0	マニュアル関係は策定出来ている。	保護者に周知ができていないマニュアルもあり、もう少し徹底できるよう考えたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	0	各種避難訓練は行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	7	0	事業所内での研修は行っている。	今年度は外部研修ができなかったが、積極的に参加したいと考えている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	1	7	保護者には契約時に、身体拘束の説明は行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	8	0	保護者より聞き取って対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	0	共有できている。	